

【授業実践の振り返り】

単元名： 国語 (光村) 中学2年「漢詩の風景」

時	内容	活動	有効であった点	改善が必要と思われる点	子供たちの反応
1	漢詩の基礎的な知識を押さえる。	めあて 漢詩の形式や種類を知ろう 1) 学習のねらいをとらえ、漢詩に興味をもつ。 2) 映像や範読から、漢詩の雰囲気をつかむ。 3) 漢詩の形式や種類について知る。 4) 興味をもったことや知ったことを発表する。	・NHK for school のビデオ視聴を通して、漢詩の歴史的背景を視覚的にイメージさせ、中国語での漢詩に触れさせることができた。 ・漢詩の形式や種類について、パワーポイントのアニメーションを用いて、五言詩と七言詩、絶句と律詩、押韻の位置などを明確に示すことができた。	・日常生活の中で漢文や漢詩にかかわることを見つけさせなかったが、アメリカ生活の中で手掛かりを掴ませることは難しく、小学校で学習した「春暁」の記憶も引き出せなかった。導入として、白文を先に見せ、漢字の並びから内容を想像しあうクイズなど、色々な角度から興味・関心をもたせる工夫をしていきたい。	・古文の学習の流れから、古典への抵抗はない様子だったが、漢文への印象は薄く、発言が乏しかった。 ・ビデオを通し、どんな学習をしていくのか、大まかな流れがつかめた様子だった。 ・絶句の構成の起承転結を、小3で学習した『三年とうげ』につなげて想起することができた。
	家庭学習課題	詩の形式や種類、漢詩のきまりについて、ワークシートにまとめる。	・授業の中で簡単に記述でき、漢詩ごとに振り返ることができた。		・口頭で伝えた内容についても、ワークシートに追記している。

1 漢詩の風景
【目標】・漢詩の形式や種類を知ろう。

①形式
漢詩の形式と構成法について、空欄に適切な語句を書いて整理しよう。

②絶句の構成
八句から成る漢詩
四句から成る漢詩
四行

第一句 起句
第二句 承句
第三句 轉句
第四句 結句

律詩
一句が五字のもの
一句が七字のもの

絶句
一句が五字のもの
一句が七字のもの

五言絶句
七言絶句

五言律詩
七言律詩

送り仮名
漢字の読みやすさを保つために、本来の漢文にはない助詞や送り仮名などを歴史的仮名遣いで、漢字の右下に片仮名で記す。

起り点
読む順序を示す記号で、漢字の左下に記す。
レ点：すぐ下の一字から返って読む場合に付ける。
一・二点：二字以上を隔てて、上に返って読む場合に付ける。

押韻
押韻の位置

【ワークシート①】

漢詩の風景
漢詩の形式や種類を知ろう。

①形式
漢詩の形式と構成法について、空欄に適切な語句を書いて整理しよう。

②絶句の構成
八句から成る漢詩
四句から成る漢詩
四行

第一句 起句
第二句 承句
第三句 轉句
第四句 結句

律詩
一句が五字のもの
一句が七字のもの

絶句
一句が五字のもの
一句が七字のもの

五言絶句
七言絶句

五言律詩
七言律詩

送り仮名
漢字の読みやすさを保つために、本来の漢文にはない助詞や送り仮名などを歴史的仮名遣いで、漢字の右下に片仮名で記す。

起り点
読む順序を示す記号で、漢字の左下に記す。
レ点：すぐ下の一字から返って読む場合に付ける。
一・二点：二字以上を隔てて、上に返って読む場合に付ける。

押韻
押韻の位置

漢詩の風景
漢詩の形式や種類を知ろう。

①形式
漢詩の形式と構成法について、空欄に適切な語句を書いて整理しよう。

②絶句の構成
八句から成る漢詩
四句から成る漢詩
四行

第一句 起句
第二句 承句
第三句 轉句
第四句 結句

律詩
一句が五字のもの
一句が七字のもの

絶句
一句が五字のもの
一句が七字のもの

五言絶句
七言絶句

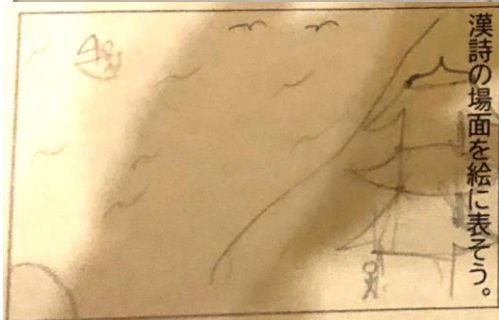
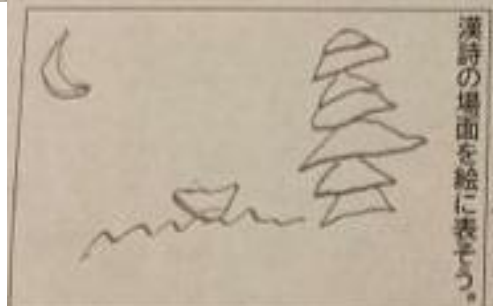
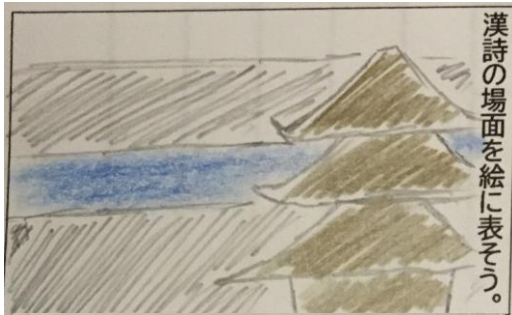
五言律詩
七言律詩

送り仮名
漢字の読みやすさを保つために、本来の漢文にはない助詞や送り仮名などを歴史的仮名遣いで、漢字の右下に片仮名で記す。

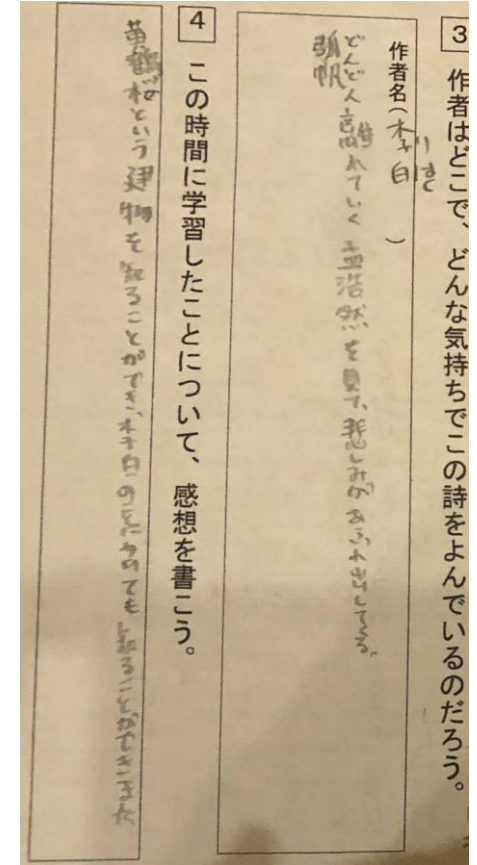
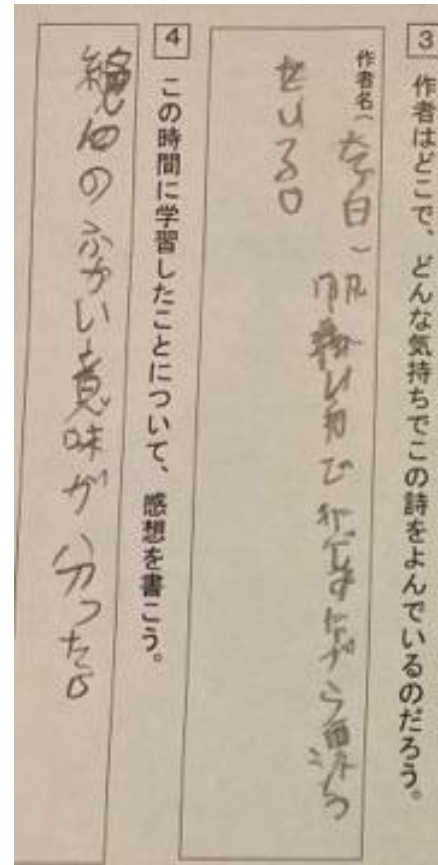
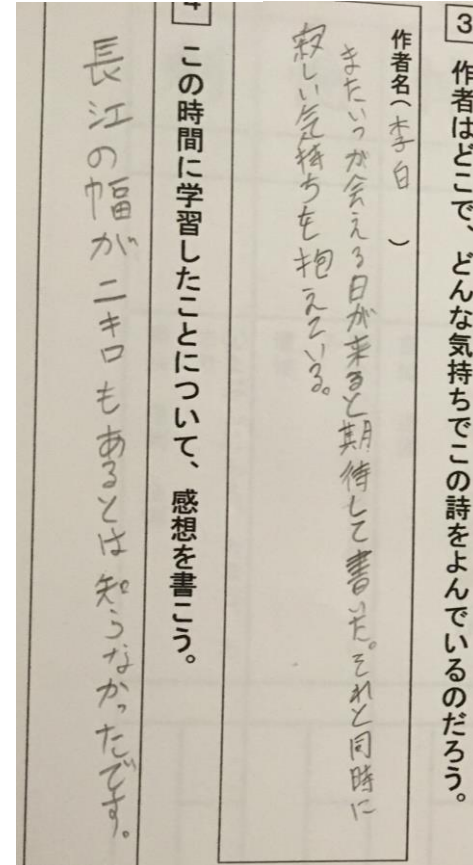
起り点
読む順序を示す記号で、漢字の左下に記す。
レ点：すぐ下の一字から返って読む場合に付ける。
一・二点：二字以上を隔てて、上に返って読む場合に付ける。

押韻
押韻の位置

時	内容	活動	有効であった点	改善が必要と思われる点	子供たちの反応
4	「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」に描かれている情景、作者の心情を捉える。	めあて 李白「黄鶴楼にて…」を読み解こう 1) 文字数形式から「黄鶴楼…」の構成を知る。 2) 書き下し文と解説文から、漢詩の内容を捉える。 3) 親友との別離や描かれている情景を捉え、心情を想像する。 4) 「黄鶴楼…」を読み、感じたことや知ったことを発表する。	・文字数に着目させ、「黄鶴楼にて…」は七言絶句であることに気付かせ、五言詩と七言詩、絶句と律詩、押韻の場所について再確認をした。 ・地図と写真を用いて、黄鶴楼と広陵（揚州）の位置関係、建築物としての黄鶴楼、長江の雄大さなど意識づけた。 ・孟浩然と李白の友人関係を、それぞれの生涯と重ねながら解説した。	・煙花、孤帆、碧空、天際など表現の難しさがあり、情景を想像させるのが難しく、日本語の訳を書くことに手こずっていた。具体的にイメージできる写真や映像などを探すと共に、日本語で表現するための助言を工夫していきたい。 ・オンラインでは直接の筆記指導ができず、提出課題の添削に時間がかかる。効果的な指導方法を探したい。	・一句の漢字数が他と違うことから、七言絶句であると気付くことができた。 ・故人、多少、絶句など、中国語と日本語では同じ言葉でも意味が違うことを知り、興味を深める様子が見られた。 ・孟浩然と李白は、別離の後にもう一度会うことができたのかどうか、年齢差などを踏まえて推測した。
	家庭学習課題	「黄鶴楼にて…」の書き下し文を、繰り返し音読する。ワークシートにまとめる。			・漢詩の風景を絵に表したり、李白や孟浩然の気持ちを想像することができた。



【ワークシート④】



時	内容	活動	有効であった点	改善が必要と思われる点	子供たちの反応
5	三編の漢詩の訓読を通し、漢詩に歌われている情景や作者の心情への理解を深める。	<p>めあて 情景や心情を捉えながら、白文を訓読しよう</p> <p>1) 三編の漢詩の白文に返り点や送り仮名を付け、訓読文を作る。</p> <p>2) 訓読についての基本を確認しながら、訓読する。</p> <p>3) 漢詩特有の言葉遣いやリズムに興味をもち、訓読を楽しむ。</p> <p>4) 漢詩に歌われている情景や作者の心情への理解を深め、今と昔に共通する人の思いに気付く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標と流れを提示してから、三つの漢詩の振り返り、白文の訓読、昔と今に共通する思いを発表した。見通しをもって学習に臨むことができたのではないと思う。 ・白文に返り点や送り仮名を付け、自ら訓読文にすることで、中国(唐)から伝わった漢詩を、どのように日本語として読み味わってきたのか、古人の工夫に触れることができた。 ・古文の授業で音読練習を繰り返してきたため、訓読練習に抵抗なく取り組み、発表することができた。 ・年表を提示し、年、国、言語を越えて語り継がれる詩を意識させた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三つの漢詩の振り返りに時間を要し、まとめの時間が不足してしまった。時間配分を見極め、質問の方法を整理することで、改善を図りたい。 ・一人の接続が途中で切れてしまい、状況を把握することが難しかった。 ・非常時におけるオンラインの対応策を、考えておく必要がある。 ・全員で声を出しながらの訓読練習を想定したが、ハウリングが起り、マイクをミュートにしたため静寂の練習風景となってしまった。 ・好きな表現と自分の体験を問う質問は、別々ではなく一緒にした方がまとめやすかったのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業の録画でいつもより言葉が出づらく、緊張している様子が出た。質問に対し、思い出したりワークシートを見返したりしながら返答し、徐々に調子をつかんできた。 ・練習を経ての訓読発表では、指名ではなく自ら名乗り出て、リズムよく堂々と発表することができた。 ・好きな漢詩の表現を選び、その理由を全員が発表することができた。 ・今も昔も変わらぬ思いがあることに気付き、自分の体験と重ねながら、共通する思いを探ることができた。国を越えた別離を体験する生徒たちにとって、印象深い学習となった。

① 三編の漢詩の白文に、返り点や送り仮名を付け、訓読文を作ろう。

② 訓点に従って、正確に訓読しよう。

③ 漢詩特有の言葉遣いやリズムを意識して、繰り返し練習しよう。

好きな詩や句の表現

題名「春曉」

春曉 孟浩然

春眠不觉晓
处处闻啼鸟
夜来风雨声
花落知多少

江碧鸟逾白
山青花欲燃
今春看又过
何日是归年

黄鶴楼にて孟浩然の
広陵に之くを送る 李白

故人西辞黄鹤楼
烟花三月下扬州
孤帆远影碧空尽
唯见长江天际流

選んだ理由

朝学校に行く時の鳥の鳴き声を思い出します。しかし今はオンラインなのであまり聞く事はありません。

③ 自分の体験と重ねながら、今も昔も、共通している思いを書き表そう。

今も昔も、親しい人と離れ気持悪い思いを共有して、今も昔も共通している思いを書き表そう。

【ワークシート⑤】

◆単元を終えて

今年度のプリンストン日本語学校は新型コロナウイルスの影響で 4 月からの通常開校ができず、5 月から、担任が授業日一日分の学習内容と具体的な課題を提供する形の「学習サポート」による授業を開始した。9 月からは同時双方向型のオンライン授業（2 時間）と家庭学習（2 時間）の「学習サポート+」による 複合体制の授業となった。中学 2 年生は、小人数（3 名）で日本語の力に違いがあることや、画面越しでは会話が教師対生徒にとどまり生徒間のやり取りまで発展しない状況、古文や漢文はアメリカでの日常生活の中で接点がないなど、困難な条件下での学習であった。

そのような中でも、生徒たちは先入観や抵抗感をもつことなく授業に臨み、漢詩の構造や内容、作者の背景などについて学びながら、漢詩の世界を絵で表したり、自分の言葉で表現するなど、興味・関心を膨らませることができた。日本語力の違いを補うための工夫としては、事前にワークシートに沿って調べる時間を設けたり、授業での質問内容に段階を設けるなど、生徒自身が自信をもって発言するだけでなく、少し難しい内容にも安心して挑戦することができる環境づくりに努めた。また、ビデオや写真、地図などの視覚教材は、中国の雄大な景色や季節感、昔の生活や距離感を想像させるための助けとなり、オンラインならではの利点として生かすことができた。さらに、白文に返り点や送り仮名を付け訓読文にすることで、唐の時代の中国から奈良・平安時代の日本へ伝わった漢詩を、古人がどのように日本語として読み味わい現代に伝えてきたのか、実感できたのではないだろうか。

本単元を通して生徒たちは、漢詩の訓読を繰り返すことで漢詩の美しさやリズムを捉えて親しむと共に、漢詩の中の情景を自分の体験と重ね合わせ、朝寝の気持ちよさや友達との別離の悲しさなど、作者と同じような気持ちを共感しようと試みた。自然の美しさや人生の苦しみや喜びといった漢詩に込められた思いは、時代も、国も、言語も越えて伝わり続けていることを生徒たちは体感し、国際社会に身を置く自己の生き方を、より豊かなものにしていくきっかけを得られたのではないかと思う。